

「山本モナも驚いた!?!」フジテレビ あの人気アナの「二股不倫」

週刊朝日

8 | 8
増 大 号
2 0 0 8
3 5 0 円

昆明「バス爆破」テロは序の口!

北京五輪で中国崩壊

今度は八王子で女子大生刺殺
通り魔殺人どこまで増える!

あの高円宮承子さま
皇室初の「早稲田入学」

ビル・ゲイツが引退、
友人が語る「天才の素顔」

岩手北部に震度6強
気になる「猛暑」と「大地震」

永作博美

裸体映像をさらす

の「わるいやつら」

人を愚弄するにもほどがあるだろう。勇気を振り絞って盗撮被害を本誌に語った女性(23)が、「二次被害」に遭っていることがわかった。女性がかつて盗撮された裸の映像が、インターネット上にばらまかれていたのだ。盗撮問題の闇は、われわれの想像以上に深かった。

ジャーナリスト 黒木昭雄(元警察官)・本誌・小宮山明希

「私は深刻な盗撮の危険を皆さんに知ってもらいたくて、これまで取材に答えてきました。でも、まさかこんな形で二次被害に遭うとは思ってもいませんでした。この誰が何のためにこんなひどいことをしたのかはわかりませんが、私は絶対に泣き寝入りはしません。警察に犯人を見つけ出してもらい、厳しく処罰してもらうために、告訴状の提出を決意したのです」

悔しさを滲ませながらこう語るのは、本誌記事「子供まで狙う温泉盗撮の非道」(07年11月23日号)、「女子高生『学内盗撮』の衝撃」(今年6月20日号)のなか



の恐怖

で、自身の盗撮被害の体験を語ってくれた関西在住の主婦Aさん(23)だ。

Aさんは6年前、大阪府内の入浴施設の脱衣所で着替えているところを何者かに盗撮された。映像を収録したDVDがビデオ店で売られているのを夫の友人が発見し、被害が明らかになった。今回、その映像が新たに加工される形で、インターネット上に流出したのがある。流出に一役買ったのは、ファイル交換ソフトの「Share(シェア)」で、6月中旬に届いたとみられている。

問題の映像を発見した「全国盗撮犯罪防止ネットワーク」(大阪府枚方市)の平松直哉代表が言う。

「これこそが恐れていた二次被害です。しかも、明らか

かにAさんを狙い撃ちにしたもので、映像の中に挿入された文字に、犯人のしたたかな意図が透けて見えます」

流出した映像は約15分間。Aさんが「出演」したニュース番組の映像の合間に、実際の盗撮映像が数秒ずつ挟み込まれている。

使われていたのは、毎日放送(大阪市)が昨年11月14日に放送したニュース番組「VOICE」内のコーナー「サツ担」だ。

映像の冒頭から黒地に白抜きで「サツ担」の文字が、画面いっぱいに広がる。

「この映像に被害女性として22歳主婦が登場する」
「この22歳主婦はこの番組のほかにいろいろなお顔を出している」
としたうえで、本誌記事の見出しなどを紹介。

「私はこの主婦がむかつくのでこの動画を作成しました。22歳主婦の盗撮映像もまじえより内容の濃いものとなっていきます」
などと「犯行声明」をぶ

ち上げているのだ。

映像は「サツ担」のニュース番組場面へと移る。Aさんが、盗撮被害に遭ったときの苦しい心情を吐露している。番組映像の無断使用ではあるが、当然、人物が特定されないように、Aさんの顔にはモザイク処理が施されている。

その直後、こんなメッセージが画面に現れる。
「では22歳主婦のほかにしる映像をご覧ください」
画面がいきなり切り替わり、盗撮DVDから抜き出したAさんの脱衣シーンが流れる。それもモザイク処理のない全裸の映像だ。

だが、これだけでは終わらない。結びでは、
「とにかく22歳主婦がテレビにすぎでむかつくん

で」
として、先の盗撮映像を繰り返し流しているのだ。
「シヨックなのは、『盗撮の現状を知ってほしい』という私の思いが逆手に取られたことです。人をバカにしたような汚らわしい文字に

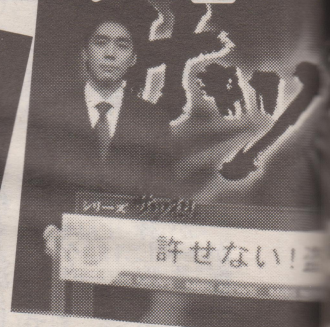
盗撮被害の告発者を悩ます 二次被害の恐怖

同級生が入浴、トイレをこっそり撮影。

「顔出し・モザイクなし」の映像が大量流出していた… 女子高生「学内盗撮」の衝撃

学校は安全な場所ではなかったが、互違はかくもに驚愕するものなのか。…本誌が過去数回にわたって追及してきた盗撮問題。今度の舞台は学校。撮影していたのはなんと「同級生」だった。目を背けたくない。この出来を。元警察官のジャーナリストが徹底する。ジャーナリスト 黒木昭雄・著

女性の ネット



週刊朝日2008年06月20日号
「女子高生「学内盗撮」の衝撃」より

私はこの主婦がむかつくのでこの動画を作成しました。22歳主婦の盗撮映像もまじえより内容の濃いものとなっていると思います。

これは報復なのか?

も、強く腹立ちを覚えます」

(Aさん)

Aさんの代理人として、共に盗撮問題に取り組んできた大橋さゆり弁護士も、こう憤る。

「盗撮DVDから抜き出したAさんの動画を番組に挿入し、被害者をさらし者にするのは、明らかに名誉棄損に値します。制作者にはそれなりに責任を取ってもらわなくては困ります」

盗撮映像を扱う関係者の仕業か

ニュース番組を無断使用された毎日放送の赤阪研二報道局長は、Aさんの意思を確認したうえで、大阪府警本部と皆根崎署に、「著作権法違反」事件として告訴状を提出したと話す。「われわれが報じた「サツ担」は、徹底した取材を経て、文字どおり、盗撮被害を防ぐために制作し、被害の現状を報道したもの。今回の問題映像は、それに反した犯罪行為であって看過

することはできない。これは、われわれメディア、社会全体に向けられた挑戦。刑事告訴したのは、今後も盗撮問題に目を背けることなく、毅然とした態度で立ち向かっていくという姿勢の表れでもあると理解していただきたい」

告訴状が提出された大阪府警皆根崎署では、「捜査中につき捜査状況は話せない」としながらも、毎日放送から著作権法違反で告訴状を受理したことを認め、「鋭意捜査中である」と話した。

それにしても、いったいどこの誰が何の目的で、これほど手の込んだ映像を作成したのか。映像のなかのメッセージは、Aさんに向けた「盗撮マニア」の嫌がらせと思えるフシもある。だが、私は盗撮マニアに罪を着せることを狙った「盗撮関係者」、つまり盗撮映像を扱う職業の人間による仕業ではないかとみている。

かりにも盗撮マニアであれば、Aさんの素顔を割り出しながら、「サツ担」が放送された昨年11月から約半年の間、公開を差し控えていたとは考えにくい。というのも、今回の問題映像は、私が「女子高生「学内盗撮」の衝撃」を本誌で発表した6月10日から数日のうちに公開されているのだ。この手際の良さから推測すると、かねてAさんをターゲットとする犯人が、Aさんの次なる行動に注目していたとみることもできるのだ。そしてAさんに対して、

「これ以上騒ぐな」というメッセージを送りつける機会を狙っていたのではないか。このところ脚光を浴びる盗撮問題に、盗撮を生業とする彼らが恐々としていることは間違いない。付け加えておくが、この卑劣な犯罪に屈することはない。そして、犯人はこの愚かな犯行の無意味さを深く知るべきだ。

実際にインターネット上にばらまかれた映像。Aさんが本誌記事に登場したことについても触れ、「むかつく」としている。右端の写真は無断使用された毎日放送の番組